

1

佐川急便株式会社

	各社の考え方
① 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none">● 企業の社会的責任を果たす上で、サプライチェーン排出量全体の算定・報告が求められる中、当社においても委託輸送や様々な社内活動によるCO2排出量を算定している。● 具体的な目標設定、削減対策の検討、取組を推進していくために、算定による現状把握は必要不可欠と考えている。
② 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none">● ESGデータブックやホームページによりステークホルダーに情報を開示している。● サプライチェーン排出量全体のバランスを把握し、削減ポテンシャル及び削減コスト等を考慮し、目標設定及び対策を実施している。
③ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none">● サプライチェーンを構成する協力会社に情報を提供することで、CO2排出量削減への理解や連携を促進し、より効果的に削減を推進することが可能になる。● 情報を開示することで、ステークホルダーへの説明責任の向上へとつながる。● 社内の環境意識向上につながる。● 他者との環境コミュニケーションが活性化する。
④ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none">● 本社の各部署でデータの集計・管理を行い、CSR推進部CSR推進課が取り纏めて算定する。

2

佐川急便株式会社

	各社の考え方
⑤ サプライチェーン 排出量の削減に 向けて	<ul style="list-style-type: none">● 算定結果からカテゴリ1・委託輸送分の全体に占める割合が大きい為、今後更なるモデルシフトの推進や、輸送の効率化により、サプライチェーン全体での削減が可能となる。
⑥ サプライチェーン 排出量算定の 課題	<ul style="list-style-type: none">● カテゴリ1の占める割合が大きい為、他のカテゴリでの削減効果がわかりにくい。● 協力会社が環境対応車を導入したとしても、現時点では正確なデータを入手できる環境がない為、数値に反映することができない。● 購入金額で算定するScope3の一部については、単価の高い商品(環境配慮型等)を選択して購入した場合、CO₂排出量が増えるという矛盾が生じる。
⑦ その他 (任意)	<ul style="list-style-type: none">● 算定の妥当性・透明性を担保するため、第三者検証を取得している。

3

佐川急便株式会社

カテゴリ-	算定方法 ※算定対象期間：2020年4月～2021年3月	
	活動量	原単位
カテゴリ-1「購入した製品・サービス」	<ul style="list-style-type: none"> ● 自社で購入した製品・サービスを対象 ● 委託輸送分(幹線輸送・集配委託)を対象 	<ul style="list-style-type: none"> ● 購入金額当たりの原単位 ● エネルギー使用量や委託金額の原単位
カテゴリ-2「資本財」	<ul style="list-style-type: none"> ● 固定資産台帳で計上した資産を対象 	<ul style="list-style-type: none"> ● 金額当たりの原単位
カテゴリ-3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃料・電気使用量の上流部分を対象 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各エネルギー使用量当たりの原単位
カテゴリ-4「輸送、配送（上流）」	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope1に含めて算定 	
カテゴリ-5「事業から出る廃棄物」	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄物種類別排出量を対象 	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄物種類別の原単位
カテゴリ-6「出張」	<ul style="list-style-type: none"> ● 出張旅費精算額を対象 	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通手段別の原単位
カテゴリ-7「雇用者の通勤」	<ul style="list-style-type: none"> ● 勤務地の都市区分と勤務日数・在籍人数を対象 	<ul style="list-style-type: none"> ● 勤務地の都市区分別の原単位
カテゴリ-8「リース資産（上流）」	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope1含めて算定 	
カテゴリ-9「輸送、配送（下流）」	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope1含めて算定 	
カテゴリ-10「販売した製品の加工」	<ul style="list-style-type: none"> ● 販売製品の加工は該当無し 	
カテゴリ-11「販売した製品の使用」	<ul style="list-style-type: none"> ● 販売製品(使用)は段ボール等の梱包資材のため、使用に伴うCO2排出は無し 	

4

佐川急便株式会社

カテゴリ	算定方法 ※算定対象期間：2020年4月～2021年3月	
	活動量	原単位
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	<ul style="list-style-type: none"> ● 自社オリジナル梱包資材の取扱量を対象 	<ul style="list-style-type: none"> ● 種類別廃棄物処理(焼却※)の原単位 ※処理方法が不明な為、保守的に算定する上で係数が多い方を選択
カテゴリ13「リース資産（下流）」	<ul style="list-style-type: none"> ● 関連性がない 	
カテゴリ14「フランチャイズ」	<ul style="list-style-type: none"> ● 該当するフランチャイズは無し 	
カテゴリ15「投資」	<ul style="list-style-type: none"> ● 当社は投資事業者及び金融サービスを提供する事業者のいずれでもなく、基本ガイドラインが定める適用事業者ではないことから除外 	
「その他」	<ul style="list-style-type: none"> ● オプションカテゴリのため算定に含めない 	
原単位データベース(参照) ・サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース Ver3.1 ・LCIデータベースIDEAv2(サプライチェーン温室効果ガス排出量算定用) ・算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧		

5

佐川急便株式会社

サプライチェーン排出量算定結果

■ 2020年度 サプライチェーン排出量 占有率

サプライチェーン全体の排出量

Scope2
(間接排出)

6.2%

Scope1
(直接排出)

18.3%

Scope3
(その他間接排出)

75.6%

Scope3 内訳

